

気候変動に対するタケダの見解

概要

タケダは、パリ協定および、世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前の水準から 2°C 未満に抑える国際的な取り組みを支持しています。

気候変動の影響は、グローバルヘルスにとっての脅威となっています。タケダのミッションは、優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献することです。グローバルなバイオ医薬品企業として、環境を保全し気候変動を抑えることは、私たちの重要なコミットメントの一つです。

タケダは、すべての温室効果ガスの排出量削減などを通じて、2040 年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを達成することを目標とし、気候変動とその影響を緩和するための活動を積極的に推進します。

背景

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最新の報告書では、世界全体の平均気温は著しく上昇しており、今後、生活基盤となる社会、環境、経済の仕組みを揺るがしかねないとしています。すでに異常気象や海面の上昇、海氷の縮小、生物多様性の損失など、気候変動の影響が目に見える形で生じており、私たちは大きな変化の渦中にあります。気候変動による重大な影響を回避するため、国際社会は一致団結してパリ協定を採択し、2016 年 11 月に発効しました。

タケダの見解

タケダは、世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前の水準から 2°C 未満、可能であれば 1.5°C 未満に抑えるというパリ協定とその世界的な目標を支持しています。気候変動によりもたらされた気温と雨量の変化により、酷暑や異常気象、生物媒介感染症の拡大、食の安全性の低下、生物多様性の損失が、グローバルヘルスにとっての脅威となっています。気候変動は、タケダの事業活動、施設、サプライチェーンにも悪影響を及ぼす可能性があります。

気候変動が生じないよう環境を保全することは、優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献するというタケダのミッションに沿うものであり、グローバル製薬企業として社会に対する責任を果たす上での指針となる、タケダイズム（誠実：公正・正直・不屈）のコアバリューに根ざすものです。

タケダのコミットメント：

タケダは 1970 年に環境保全対策委員会を設置して以来、約 50 年にわたり環境保全活動に積極的に取り組んできました。そして、気候変動に対してさらに野心的な取り組みを推進するため、2040 年にバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを達成するという目標を定めました。タケダはこの目標を、事業活動における温室効果ガスの排出をゼロにし（スコープ 1 および 2）、サプライヤーと協働して排出量を大幅に削減し（スコープ 3）、スコープ 3 の残りの排出量を実証済みのカーボンオフセットで相殺することで達成します。また、気候変動によるグローバルヘルスへの喫緊のリスクを踏まえ、当社事業およびサプライヤーからの温室効果ガスの排出量削減に取り組むとともに、2019 年度より、再生可能エネルギーの購入と実証済みカーボンオフセットにより、カーボンニュートラル（スコープ 1、2、3）を実現します。具体的には、以下の取り組みを通じて、カーボンニュートラルの目標達成を目指します。

- 当社の施設、製造工程、製品物流、その他すべての事業活動において効率的なエネルギー利用および省エネルギーに投資する
- グローバルで再生可能エネルギーに投資し、従来型電力から再生可能エネルギー由来の大規模な電力買取契約や再生可能エネルギーによる自家発電などに切り替え、再生可能エネルギーを調達する仕組みを整える
- バリューチェーン全体で取引先と協働し、気候変動に対処する
- 当社の事業活動で脱炭素化につながる革新的な新技術が利用可能になれば、こうした技術に投資し採用する
- 温室効果ガスの排出が避けられない、または減らせない場合には、高品質で測定・検証可能なカーボンオフセットに投資する。カーボンオフセット購入に対するタケダのアプローチの詳細については、[こちら（英語）](#)を参照
- 気候変動についての戦略やリスク、機会、活動、目標に対する進捗は、透明性の高い情報開示とコミュニケーションを行う

政策についての提言：

パリ協定の目標達成には、政府による強力な政策に支えられた世界経済のすべてのセクターにおいて、大胆かつ喫緊の対応が求められます。タケダは、低炭素社会の実現を推進するため、以下の政策を支持します。

1. 科学的根拠：気候変動についての政策は、気候変動を効果的に抑えるための、最新かつ広く認められた、気象についての科学的根拠に沿ったものである必要があります。
2. 市場原理：気候変動についての政策では、温室効果ガス排出を制限し、地球環境を保護する技術革新を進めるため、経済面からインセンティブを与えることができるよう、市場原理に基づくアプローチを採用する必要があります。
3. 効率的なエネルギー利用の推進：効率的なエネルギーを利用することは、従来型のエネルギーインフラへの需要を減らすため、温室効果ガスの排出量削減の上では費用対効果が高い基本的な方法です。気候変動についての政策では、効率的なエネルギー利用を継続して推進する必要があります。

4. 再生可能エネルギーの拡大：気候変動についての政策では、化石燃料をベースとする経済からの移行を可能にする、再生可能エネルギーおよび先進的なバイオ燃料の普及を促す必要があります。
5. イノベーションの支持：気候変動についての政策では、温室効果ガスの排出量削減のための技術開発におけるイノベーションを推進し、そうした技術の普及を促し、実績のある排出削減技術を採用する際の妨げとなっている事案を取り除く必要があります。温室効果ガス排出を減らす技術としては、ビル管理技術や温室効果ガスの回収および貯蔵、自然資本ソリューション、温室効果ガス排出の少ないマイクログリッドや輸送用燃料などがあります。
6. 気候変動に対する適応を支持：気候変動の影響はすでに、異常気象や海面の上昇、海氷の縮小の形で見られます。気候変動についての政策では、気候変動の緩和に取り組むとともに、洪水防御壁の建設や将来の気象条件に対応した建築基準の採用といった気候変動への適応の、両方での対処が必要です。それにより、気候変動の影響へのリスクがある地域の脆弱性が軽減されます。

タケダは、気候変動を抑えるための国際的な取り組みを支持し、「パリ行動誓約」に署名するとともに、科学的根拠に基づく目標設定イニシアティブに参加しており、気象科学に沿った形で気候変動の影響を防ぎ軽減することに努めています。タケダは気候変動に関する世界最大の企業主導型イニシアティブである「Caring for Climate」にも参加し、気候変動に対する自らの戦略、イニシアティブ、インパクトをCDP（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）に毎年参加して公開しています。

結び

世界的な気候変動は、社会が直面している大きな課題の一つです。気候変動は年々目に見える形になっており、グローバルヘルスにおける課題となる可能性が高まっています。タケダはグローバルなバイオ医薬品企業として、すべてのセクターが、低炭素社会の実現を推進するため、大胆な活動が必要であると考えています。

2020年1月